

平成30年度第5回行政評価委員会（暮らし部会）会議録

1 開催日時

平成30年10月15日（月） 午前10時～午前12時

2 開催場所

花巻市役所 3階302会議室

3 出席者

(1) 委員 6名

鈴木健委員（部会長）、高橋照幸委員、吉田幸子委員、小原幸子委員、伊藤蓉子委員、清水正明委員

(2) 説明者（施策主管課） 2名

長寿福祉課：砂川秀輝課長補佐（高齢福祉担当）、久保田和子課長補佐（包括支援担当）

(3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 2名

秘書政策課：瀬川千香子主査

財政課：松田隆課長補佐兼経営財務係長

4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「高齢福祉の充実」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

鈴木健委員：高齢者在宅生活支援事業の軽易な日常生活の支援について、除雪など多くの需要があるかと思われるが、思いのほか利用が少ないように感じる。対象者はあらかじめ登録しているのか。

久保田和子課長補佐：確かに除雪での利用が多い。65歳以上で一人暮らしや65以上のみの世帯で、家族や近所の援助が得られない方等の条件があるため、対象者は絞られている。あらかじめ登録した上で利用していただいている。

鈴木健委員：高齢者介護予防対策事業の「湯のまちホット交流サービス」については、花巻らしく、生きがいにつながる事業である。

高橋照幸委員：「現状と課題」について、現状のみで課題が明確になっていない。特に「高齢者が持つ能力や技術を地域福祉活動に十分に活かしていない状況です」の部分の背景がわからない。

久保田和子課長補佐：確かに、そのまま読むと言葉足らずである。能力を活かしている方は多いし、表に出てこないが地域を支える方もいる。「十分に活かしていない」こと

が課題であり、今後も活かしていくことが必要。

高橋照幸委員：「◎前年度の評価の振り返り」において、「在宅待機者の解消に向けた介護サービス施設の整備を行う」に対し、「2施設27床の整備を行った」とあるが、待機者の何割くらいが解消されたのかわからない。

久保田和子課長補佐：2施設の整備によりすべての待機者が解消されたわけではない。特別養護老人ホームに関しては、待機者に入所の順番が回ってきてもすぐ入所するとは限らないことから、待機者ゼロは現実的ではない。あくまで選択肢が広がり、必要なサービスが使えるようになることを目指すもの。

高橋照幸委員：「2成果指標」の目標値について、少数点以下の細かい設定は一般的でない。不要なのではないか。

砂川秀輝課長補佐：目標値については、高齢者人口で割り返して設定し、目標年までに徐々に向上させる目標を立てたことから細かくなったと思われる。

小原幸子委員：高齢者社会参加活動支援事業における3団体への50万円補助について、実施した地区など詳細を教えてください。

久保田和子課長補佐：ミニデイサービス、生活支援のほか、上町では地域活性化のためビリヤード協会が高齢者の生きがいを支援している。

清水正明委員：施策の成果指標については、アンケート結果だけではなく客観的な数値を把握できる指標とセットで評価した方が良いのではないかと。

清水正明委員：高齢者社会参加活動支援事業について、60歳以上の老人クラブ会員数の割合は今後厳しくなるのではないかと。

伊藤蓉子委員：65歳定年となって老人クラブ自体が高齢化している。地区の活動のなかの動員が嫌で加入しない人、脱退する人がいる。老人クラブの今後の在り方を検討する必要がある。成果指標「生きがいを持って暮らしている高齢者の割合」について、実績が8割を超えているのはすごいことではないかと。

吉田幸子委員：指標として妥当かどうか。施策の成果指標がアンケート結果だけでは、様々な事業を実施してもそれが反映された施策の成果が見えてこない。また、言葉では記載されていても、どうやって測るのがわからない。例えば、「現状と課題」にある「高齢者が持つ能力や技術を地域福祉活動に十分に活かしていない状況です」などについて、改善したかをどう測るのか。

清水正明委員：事業全般について、現状のように細分化する必要があるのか。また、医療と介護の連携について今後の展開を整理しておかないと、大変なボリュームになるのではないかと。

久保田和子課長補佐：花巻市は高齢福祉に幅広く取り組んでおり、どこかで整理しないと、このままではこなしきれなくなる。メニュー数が多いことは市民から見ると充実していることになるが、何が高齢者のためになるのかを見極める必要がある。

鈴木健委員：「6施策の総合的な評価」の「(課題)」に記載の「第7期介護保険計画の制度の周知」について、まず知ってもらうことが必要なのか。

久保田和子課長補佐：介護保険サービスが始まって20年が経つが、人材・費用が限られていることから適正なサービス利用が大切。それにはまず制度を知ってもらうこと

が必要であり、何歳になっても活躍してほしい。

高橋照幸委員：介護人材の不足についても長寿福祉課で対応するのか。地域の元気な人が担わないと成り立たない。高齢福祉の立場だけでなく、地域福祉や障がい福祉など様々な分野が連携しなければならない。介護の国家資格を持つ人が介護サービス利用者の話し相手をするのは非効率である。話し相手は地域の人が担うなど工夫が必要である。

久保田和子課長補佐：その通りとを感じる。平成30年度から生活支援に取り組む団体・地域の自主的な取り組みを支援する。実施する団体も出てくるのではないかと。

伊藤蓉子委員：生活支援ボランティアの養成を実施しているか。ゴミ出しなどはボランティアで対応可能である。

久保田和子課長補佐：通算で168人が研修を受けている。しかし、研修を終了しても受け入れ組織が整っていない。やる気のある人に活躍していただく方法を検討しなければならない。

高橋照幸委員：いきなり地域のボランティアに切り替えるのではなく、サービス利用者が慣れるまでヘルパーと地域のボランティアと一緒にサービスを提供する仕組みをつくっていかないと浸透しない。ボランティアのやる気が高まっているうちに取り組まなければならない。

久保田和子課長補佐：サービス利用者はこれまでと違う人が家に入ることに抵抗がある。今のご意見のように、ヘルパーとボランティアと一緒に入ることを提案してはいるが、難しい。

吉田幸子委員：かえって近所の人に家に入られることを嫌う人もいる。

高橋照幸委員：時間をかけていかなければならない。

吉田幸子委員：老人クラブについては、組織がないと孤立する人もいることから、組織があった方がよい。しかし、自身が若いと思っている人は加入しないだろう。

清水正明委員：活動するにあたり、組織をつくらなければならない。どうやってその組織をつくるのか、パンフレットなどの手引きが必要。地域でも、「活動したくてもできない」と悩んでいる場合がある。兼ね合う事務事業もあるため、事業をここまで細分化せず、住民の立場になって事業を再編してはどうか。事業名をもう少しソフトにすればわかりやすい。また、事業を整理すれば課題が見えてくるのではないかと。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

●「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか

鈴木健委員：質疑でも話題に上ったが、十分とは言えない。例えば、「支援を行った結果どうなったのか」まで記載されていると良い。

小原幸子委員：取り組もうとしているが、間口が広すぎる。

高橋照幸委員：全体的にどうとらえるかまでたどり着いていない。

吉田幸子委員：行政が全てやらなければならないのかどうか、見極めることができないため、課題が出てきていない。

清水正明委員：この施策はすべて長寿福祉課で実施しているようだが、生涯学習の分野も関わっている。

● 「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

鈴木健委員：「①市民ニーズや市の関与の必要性・・・」の欄に老人クラブについて記載されているが。

清水正明委員：成果「C」であることについて、それをどう改善するのかまで記載する必要がある。

吉田幸子委員：「新たに取り組むべき事業」の欄に「人手不足解消を図るために介護人材確保事業が必要」とあるが、根拠の記載がない。人手不足は全国的、一般論的なことであり、花巻市の現状として、「必要数〇人のところ〇%充足している」など具体的な記載があるとわかりやすい。事業所へのアンケート結果などでもよい。

小原幸子委員：今は問題なくてもあと数年後には不足するという事業所もある。

高橋照幸委員：事業所ではまったく新規の方ではなく、経験者がほしい。

鈴木健委員：検証自体は的確だが、その根拠や具体的な記述があるとわかりやすいということ。

● 「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

鈴木健委員：成果指標「生きがいを持って暮らしている高齢者の割合」について、実績値が高いことは素晴らしいことであると思うが、その背景・要因についてはどうか。

吉田幸子委員：老人クラブに入っていることが生きがいを持っていることとは言えないのではないか。趣味を持っている、働いて収入を得られる、ボランティアに取り組んでいる等さまざま考えられる。

高橋照幸委員：福祉の面のみで生きがいを判断することは困難。

小原幸子委員：この成果は間違いではないと思うが、ここに現れないこともある。

清水正明委員：老人クラブは要素の一つでしかないということに注意する必要がある。

吉田幸子委員：自分たちの所管する事業だけで評価しようとするには無理がある。

鈴木健委員：本施策以外の要素での分析があるとさらに良いということ。

清水正明委員：成果指標のアンケートのとり方を再検討すべきである。

鈴木健委員：「生きがいを持っていない」とは答えづらい部分がある。

吉田幸子委員：実態ではなく、回答者の希望が入っていると思われる。

● 「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

吉田幸子委員：「(今後の方向性)」2つ目に記載の「在宅医療介護連携推進会議」についてはケース会議のようなものか。誰がどのような対応をするのか等わかりやすい表現とならないか。

清水正明委員：「(今後の方向性)」の2つ目において、「関係者の意識啓発」について触れられていないのか。「(課題)」には「在宅医療介護連携の推進を行うために」と「関係者の意識啓発のために」と2つ「ために」が続いている。方向性については示されているが、課題についての記載があいまいである。

鈴木健委員：「(今後の方向性)」3つ目に記載の人材不足への対応として、高校生を対象と

した事業に踏み込んでいる。

小原幸子委員：「奨学金返還者への支援」について、どういう人が対象となるかなどをわかるように記載しないと誤解される可能性がある。

松田隆財政課長補佐：介護職に就いた方への市の奨学金の返還額の半額補助であり、保育士を対象とした同様の制度がある。

吉田幸子委員：「奨学金返還者への支援」については、「講座の開催等を行うとともに」に続けず、区切って記入するとわかりやすい。

高橋照幸委員：福祉の現場の働き方改革も行う必要がある。就職してもすぐにやめてしまっただけでは困る。

吉田幸子委員：人材不足のほかに定着しないという問題もあることから、その方策が必要ではないか。

鈴木健委員：人材不足の解消については、支援内容を分かりやすく記載する必要がある。また、定着率の向上に関する対策も必要なのではないか、ということ。

● 「シート記載内容全般について」

鈴木健委員：吉田委員から指摘のあったように使われている言葉がわかりにくい。

吉田幸子委員：書き言葉だからかもしれないが、例えば「顔の見える関係づくり」などは、具体的にどういったものなのか。また、事務事業も似たものばかりで、中身をじっくり見ないとどういった内容なのかがわからない。

高橋照幸委員：事務事業名は国の制度の名称そのままであり、市の単独事業だともう少し柔らかくできるのだろうが・・・。

清水正明委員：事業名にカッコ書きで副題をつける例もある。